

## BMC プログラム・海外派遣報告

化学専攻 医薬品化学研究室 博士後期課程 3 年 町田慎之介

参加学会：American Chemical Society 238th National Meeting

会場：Washington Convention Center

派遣期間：2009 年 8 月 14 日～8 月 22 日

BMC インテグレート大学院理学教育プログラムの御支援の元、今回私はアメリカ・ワシントン DC で催された ACS 238th National Meeting に参加し、研究発表を行いました。今回参加した学会はアメリカ国内だけにとどまらず各国の大学・企業からさまざまな化学の分野の研究者が参加する学会です。

ワシントン DC に滞在中は天候に恵まれ、大阪ほどではありませんが日差しが強く、蒸し暑いものでした。また、ワシントン DC はアメリカ合衆国の行政を担う街であるためにたくさんの省や行政機関が存在することは勿論のことですが、有名なスミソニアン博物館を始め、数多くの博物館・美術館が存在する観光の街でもあります。そのため、日中はビジネスマン、各省で働く人のみならず各国から多くの人々がこの街を訪れます。



本学会において私は医薬品化学・有機化学合同のセッションで、これまでの研究成果を発表しました。私の苦手な英語での発表ということもあり、上手くプレゼンテーションができるのかという不安もありました。実際、私の英語力不足を露呈してしまった部分もありましたが、外国の大学・製薬企業の研究者の方たちと間近に研究内容を説明し、質問を受けるといった日本ではなかなかめったにない機会を経験することができました。当初、二時間の発表時間は長いなあと感じましたが、聞きに行きたかった同じ研究領域のポスター発表に行くことを忘れてしまうくらい充実した時間を過ごすことができました。その中でも、私と同じ研究領域で非常に著名な先生が私のポスター発表の場に訪れ、私の研究成果を褒めて下さったことがこの学会の一番の嬉しい出来事でした。

最後になりましたが、経済的援助をしていただきました BMC インテグレート大学院理学教育プログラムの関係者の皆様、私が所属する医薬品化学研究室 加藤修雄教授、大神田淳子准教授ならびに日頃からお世話になっている研究室の皆様に御礼申し上げます。

